

2020 年度統計関連学会連合第 4 回理事会・組織委員会 議事録

日 時：2020 年 12 月 24 日（木）13:00 – 14:10

場 所：オンラインにより実施

出席者：

【学会連合理事】

連合理事長	岩崎 学
応用統計学会	富澤貞男, 松浦正明
日本計算機統計学会	足立浩平, 小木しのぶ（委任状）
日本計量生物学会	松井茂之, 大橋靖雄（委任状）
日本行動計量学会	岡太彬訓（委任状）, 菊地賢一
日本統計学会	川崎 茂, 山下智志
日本分類学会	栗原考次, 富田 誠

【連合大会実行委員会】 山本義郎 (2020), 西井龍映 (2021)

【連合大会運営委員会】 藤野友和 (2020), 久保田貴文 (2021), 飯塚誠也 (2021)

【連合大会プログラム委員会】 富田 誠 (2020), 坂本 亘 (2021)

【JJSD 編集委員長】 青嶋 誠

幹事 阿部貴行, 石岡文生, 大草孝介

組織委員会・審議事項

0. 前回議事録の確認

前回の組織委員会の議事録が確認された。

1. 2020 年度連合大会報告及び決算

- ・ 藤野運営委員長（2020 年度）より、会計報告・決算報告が提出され、審議の結果、原案の通り承認された。また、会計および運営に関して以下の通り報告及び議論があった。
 - 収入については、完全オンライン開催であったが、大会収入はほぼ予算通りでありチュートリアル収入は予算を大幅に上回るものであった。オンライン開催であったため懇親会は行わず、現地での展示収入や助成金の収入はなかった。
 - 支出については、オンライン開催であったため会場費の支出がなく人件費も大幅に減少した。報告集郵送のために通信・運搬費が予算よりも増加した。直前までハイブリッド開催に向けて現地での準備（新型コロナウイルス対策も含む）も並行し、学会期間中はオンラインの現地本部用に会議室を借りたため会議費・委員旅費補助が増加した。
 - 全体として収入と支出はほぼ同額であり、予備費は昨年と比べ約 25 万円増加した。

2. 2021 年度連合大会各副委員長及び委員について

- ・ 岩崎理事長より、2021 年度の運営副委員長（2022 年度運営委員長）に飯塚誠也氏（岡山大学）に担当頂きたい旨の提案があり、承認された。プログラム副委員長（2022 年度プログラム委員長）は引き続き検討されることが報告された。また、下記の各学会からの選出委員について承認された。
- ・ 2021 年度運営委員会
委員長：久保田貴文（多摩大学）
副委員長：飯塚誠也（岡山大学）
応用統計学会：中川智之（東京理科大学）
日本計算機統計学会：作村建紀（法政大学），阿部寛康（京都大学）
日本計量生物学会：小向 翔（大阪大学），井桁正堯（兵庫医科大学）
日本行動計量学会：森川耕輔（大阪大学）
日本統計学会：渡辺隼史（金沢大学），今泉允聡（東京大学）
日本分類学会：宇野光平（名古屋大学）
委員長推薦：岡本 基（統計数理研究所），加藤 みずき（多摩大学）
- ・ 2021 年度プログラム委員会
委員長：坂本 亘（岡山大学）
副委員長：調整中
応用統計学会：前園宜彦（中央大学），山本紘司（横浜市立大学）
日本計算機統計学会：川野秀一（電気通信大学），兵頭 昌（神奈川大学）
日本計量生物学会：船渡川伊久子（統計数理研究所），土居正明（京都大学）
日本行動計量学会：加藤 諒（神戸大学）
日本統計学会：茂木快治（神戸大学），高部 勲（総務省統計局）
日本分類学会：林 邦好（聖路加国際大学）
委員長推薦：杉本知之（滋賀大学）
- ・ 2021 年度実行委員会
委員長：西井龍映（長崎大学）
実行委員：式見拓仙（長崎大学），森本心平（長崎大学），佐藤俊太郎（長崎大学病院），植木優夫（長崎大学），高橋将宜（長崎大学），梅津佑太（長崎大学）
- ・ 運営委員およびプログラム委員の委員長推薦による委員追加については、昨年と同様の対応とする（基本的には承認することとし、各委員長から理事長に伝え、理事長から組織委員会に報告（メール審議）する）。
- ・ 実行委員の追加についても、昨年と同様の対応とする（組織委員会の承認は必要としない）。

3. 2021 年度連合大会運営方針について

2021 年度の連合大会の運営方針について、以下の通り情報共有、報告および議論がなされた。

- ・ 会場については、長崎大学文京キャンパス内の教室を予約しているが、来年の新型コロナウイルスの状況を鑑み、2021 年 3 月中には開催方法を決定したい。現在も長崎県への移動制限の対象地域

が複数あり、実施方法としてはハイブリッド開催あるいは完全オンライン開催のいずれかの予定である。いずれの開催方法の場合でも、参加費は同額とする。

- ・ 2021 年度にはプレナリーセッションを行う方針である。
- ・ 学会業務委託について、2020 年度と同じ業者に委託する計画である。2020 年度と 2021 年度の運営委員長間で業務委託に関する引継ぎは適切に行われている。
- ・ 山本実行委員長（2020 年度）より、大学を会場としてハイブリッド開催する場合、大学のポリシーによりキャンパス内の教室を利用できなくなるリスクを想定する必要がある旨が指摘された。
- ・ 富田プログラム委員長（2020 年度）より、開催方法により座長・発表者が参加をキャンセルする可能性があるため、事前に開催方式ごとの参加希望をとるのも一案である旨が指摘された。
- ・ 岩崎理事長より、2022 年度統計関連学会連合大会の開催地及び実行委員長は検討中であり、次回の連合理事会・組織委員会までには提案したい旨が報告された。

連合理事会・審議事項

0. 前回議事録の確認

前回の連合理事会の議事録が確認された。

連合理事会・報告事項

1. JJSD の現状について

青嶋編集委員長より、JJSD の現状について次の通り報告があった。

- ・ 新型コロナウイルスの影響もあり投稿数は若干減少したが、これは統計関連の国際誌でも同様の傾向がみられ投稿の減少率も他の雑誌と同様であった。
- ・ 採択率については、査読前の審査を厳格に行っていることもあり若干上昇したが、論文の質は保証できていると考えられる。雑誌の発行も計画通りに行われている。
- ・ 投稿から掲載までに要した期間に関する評価では、引き続き高評価を得ている。
- ・ 特集号は、2022 年度 6 月（covid-19 に関するもの）および 2022 年度 12 月（データサイエンスに関するもの）を企画・出版する予定である。
- ・ 2020 年 10 月から JJSD は **transformative journal** に登録された。これは欧州における学術雑誌へのオープンアクセスポリシーとも合致した取組みであり、将来的な完全オープンジャーナルへの移行のためのプロセスである。

2. 後援・協賛について

岩崎理事長より、前回理事会から本日までに、次の事業・会議に後援したことが報告された。

- ・ 九州大学 IMI シンポジウム「デジタル・ニッポンの実現に向けたデータ格付け数理基盤に関するシンポジウム」(2020.12.14) 於：九州大学伊都キャンパス及びオンラインの後援

3. その他

- ・ 岩崎理事長より、以下の通り依頼・提案があり、審議の結果、承認された。
 - 連合サーバー使用料として、連合大会の会計から 10 万円を連合本体に支出する。
 - 組織委員会の運営費として、連合大会の会計から 70 万円を連合本体に支出する。
-
- ・ 岩崎理事長より、統計・データサイエンスに関する教員の人材育成事業の状況について説明があり、理事間で今後統計関連学会連合として積極的に関与する必要がある点が共有された。山下理事より、本事業はデータサイエンスの中の統計学に関する教員の育成を目標としており、それにより本邦の当該領域の技術者の増加に繋げるものであることが説明された。統計関連の事業を計画している方は山下理事に提案してほしい旨が周知された。
 - ・ 岩崎理事長より、来年 3 月末までに理事の交代がある学会については、新理事を理事長に報告するよう周知された。次回の 4 月の理事会において新理事の中から理事長を決定する予定である。

次回連合大会組織委員会及び統計関連学会連合理事会：

2021 年 4 月にオンラインで開催予定